

自然を大切に自然とともに歩むまちづくり

「一人ひとりが自然を大切に、自然を守り活かすことでまちの豊かさにつながるまち」を将来像に据え、自然が持つ公益的機能や生物多様性の維持、豊かな景観や環境の保全などを通じて、まちの豊かさを生み出します。

また、人にも環境にも負荷をかけない暮らしを推進し、脱炭素社会の実現に貢献するとともに、まちの山から海までの自然の魅力を活かした暮らしを次世代に引き継ぎます。

施策27 大山町の魅力や暮らしやすさにつながる土地利用を実現しよう

施策28 目の前のかけがえのない風景を守り、自然の力を活かそう

施策29 脱炭素社会を実現し、地球温暖化の抑制に貢献しよう

施策30 豊かな自然を活用し、大山の恵みと共生するまちを続けよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	

27 大山町の魅力や暮らしやすさにつながる土地利用を実現しよう

【 施策の目的 】

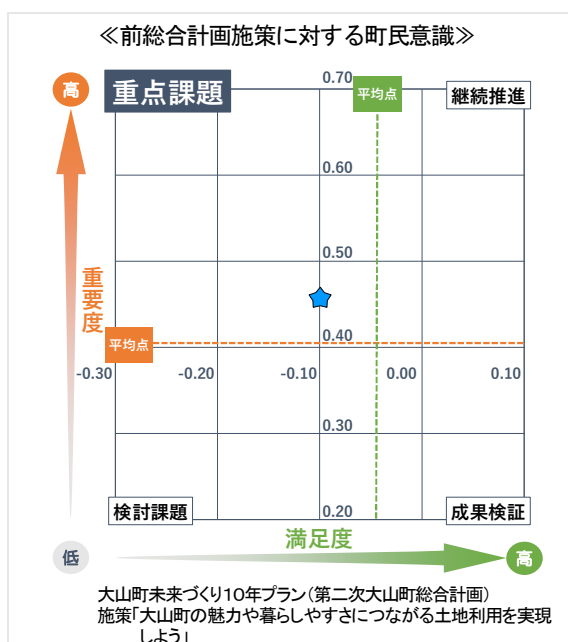
海も山もある大山町の自然や土地を守るとともに、暮らしに必要な利用を両立する開発・規制によって、まちの魅力や暮らしやすさにつながる土地利用を実現します。また、土地利用の基礎データとなる地籍調査に継続して取り組みます。

【 現状と課題 】

大山町は、大山を中心に大山隠岐国立公園の区域に含まれており、大山山頂から広がる国立公園地内は、自然公園法により無秩序な開発が防がれています。農地は、山岳地や丘陵地を除いて町内のほぼ全域にあります。農地を宅地などの他の用途に変更する場合は手続きが必要です。現在、大山町には都市計画はありませんが、開発にあたっては事前協議が必要となる場合があり、各種規制等について関係各課が連携し、適切な土地利用を促しています。

土地利用の状況を把握する基礎データとなる地籍調査は、名和地区については、昭和47年に完了していますが、中山・大山地区では平成6年から調査を開始しました。令和6年度末時点の町全体の進捗率は、74.4%(調査が必要な面積(国有林等除く)146.15km²に占める調査済面積)であり、早期の調査終了に向けて継続した取組が必要です。

限りある土地をいっそう有効に活用するとともに、守るべき資源を守り、まちの魅力や暮らしやすさにつなげていくためには、貴重な自然環境を保全する場所、一次産業の用途に応じた使い分け、地域活性化のために積極的に活用する場所など、将来を見据えた開発・規制が必要です。





【 取組方針 】

1 土地の有効活用を推進する

- ① 大山町の魅力や暮らしやすさにつながる土地利用に向けて、用途に応じた適地の検討や官民が連携して町内の土地の有効活用を進め、持続可能な地域づくりの推進に努めます。

2 土地利用に関する計画や指導を適切に実施する

- ① 土地の利用や開発に関する情報を一元管理し、開発行為に事前協議が必要な場合は『大山町開発行為の手引』をもとに対応します。地域の理解や環境への配慮を前提に、自然景観や生物多様性等の保護の観点も踏まえ、事前協議が不要な場合であっても、土地利用の注意点等を指導・助言しながら適切な土地利用を促します。

3 地籍調査の重要性を伝える

- ① 地籍調査を進めるには、土地の持ち主である住民の理解・協力が欠かせません。町ホームページや大山チャンネルなどを利用し、地籍調査の重要性を伝えるための広報を進めていきます。

4 地籍調査の進捗率を高める

- ① 早期の地籍調査完了をめざして、従来法より広い面積を調査できる航測法を活用して進捗率を高めます。

主要指標					
指標名	指標説明	単位	当初値 [年度]	目標値 [年度]	備考
地籍調査事業実施面積	地籍調査事業の累計実施面積	km ²	108.80 [R6]	143.99 [R15]	増加傾向の中で、当初値以上をめざす

【 関連計画 】

・第7次国土調査10ヵ年計画

28 目の前のかけがえのない風景を守り、自然の力を活かそう

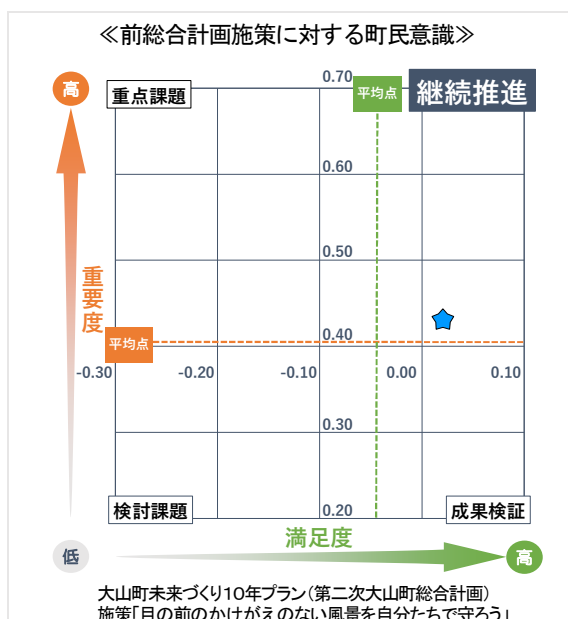
【 施策の目的 】

社会的な価値があるまちの豊かな自然景観の維持や、自然が持つ公益的機能、生物多様性などの環境保全に向けて、大山町に関わる誰もが協力して環境保全に取り組む環境づくりをめざし、良好な環境の保全を実現します。

【 現状と課題 】

大山町には、海や山の自然景観や農村景観など、人と自然が関わり調和した文化的な生活と美しい景観が随所に見られます。美しい景観は、町民の愛着やふるさとへの誇りにつながるだけでなく、来訪者にとっても魅力的なものであり、社会的な価値のあるものです。人と自然が共生しながら育まれてきたかけがえのない自然環境や生活環境、これらの良好な環境を大切に後世に残していくことが、大山町のまちづくりには重要です。

これまで、環境保全のためには、公害防止に関する協定などにより公害を未然に防止し、鳥取県条例に沿って屋外広告物の管理や景観の保全に努めてきました。今後は、景観だけでなく自然が持つ水源涵養機能や土砂災害防止機能などの公益的機能の維持、生物多様性などの視点も持ち、住民・団体・企業・行政など大山町に関わる誰もが協力しながら、豊かな環境と景観を維持していく必要があります。





【 取組方針 】

1 海も山もある大山町ならではの自然を大切にする

- ① 大山町は大山山頂から日本海まで続き、その中に森や川、農地などの表情豊かな資源が含まれています。この資源を守るため、行政・住民・企業など地域が一体となって自然環境の保全やまちの美化活動に継続して取り組みます。
- ② 環境保全、生物多様性の保護、土砂災害防止などの森林の多面的な機能を維持するため、森林環境譲与税を活用し、森林の整備を進め、林業事業者とも連携しながら森林保全と適切な森林経営に取り組みます。
- ③ 農業の持つ多面的機能の維持・発揮が期待される中山間地では、維持・管理を含めた農業生産活動を継続できるよう地域の取組を支援し、美しい農村・田園風景を守ることにつなげます。

主要指標					
指標名	指標説明	単位	当初値 [年度]	目標値 [年度]	備考
中山間地域等直接支払制度取組集落数	中山間地域等直接支払制度取組集落の実績数	集落	66 [R7]	66 [R15]	減少傾向の中で、当初値維持をめざす
多面的機能支払交付金取組集落数	多面的機能支払交付金取組集落の実績数	集落	67 [R7]	67 [R15]	減少傾向の中で、当初値維持をめざす
農業振興地域（農用地面積）	農業振興地域（農用地面積）確保の実績数	ha	3,791 [R6]	3,680 [R15]	減少傾向の中で、減少傾向の改善をめざす

29 脱炭素社会を実現し、地球温暖化の抑制に貢献しよう

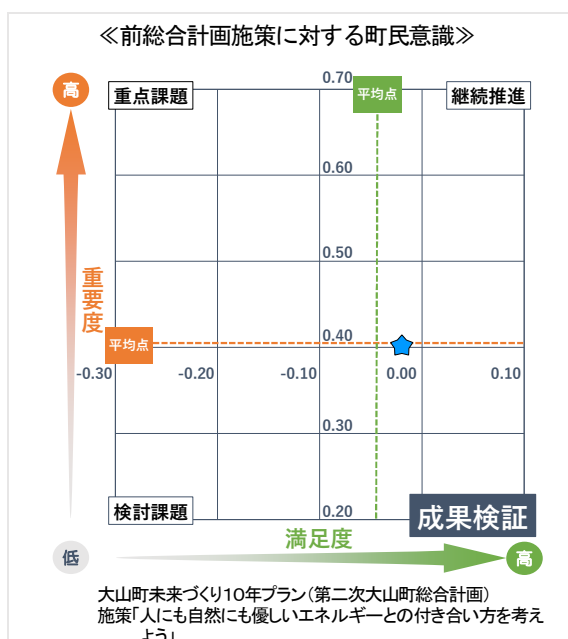
【 施策の目的 】

自然環境を活かしたエネルギーの作り方と使い方を発信し、環境にも暮らしにも負荷をかけない優しい社会をめざします。大山町で暮らし活動するすべての人のエネルギー利用に対する意識を高め、地球温暖化の抑制と脱炭素社会に向けて取り組みます。

【 現状と課題 】

近年、環境問題への関心が高まり、自然との共生をめざした自然エネルギーの推進や循環型エネルギーの開発、脱炭素の取組が進められています。大山町では、風力発電施設を稼働させ、自然エネルギーの活用を推進してきました。また、環境とのバランスに配慮した自然エネルギーへの転換や省エネルギー化などを支援してきました。

持続可能な環境の構築やエネルギーの安定供給のためには、施設のエネルギー消費量・使用状況の実態調査・情報収集が必要です。さらに、エネルギーの安定供給・地産地消のためには民間企業との連携も必要となるため、脱炭素社会への具体的なゴールのイメージを作成し、大山町全体で推進していくことが重要です。





【 取組方針 】

1 公共施設の温室効果ガス排出量を削減する

- ① 地球温暖化対策実行計画(事務事業編)では、令和12年度(2030年度)末の公共施設等における温室効果ガスの排出目標⁶⁸の平成30年度(2018年度)比50%削減をめざし、公共施設・設備更新時の省エネ・再エネ化や職員の意識啓発に努めます。

2 一般家庭や事業者の温室効果ガス排出削減を進める

- ① 一般家庭や事業者の温室効果ガス削減の取組や目標を定めた地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定し、町全体での温室効果ガスの排出削減を図るための取組を推進します。

主要指標					
指標名	指標説明	単位	当初値 [年度]	目標値 [年度]	備考
温室効果ガス排出量	大山町の事務事業で発生する温室効果ガス排出量	t-CO2	5,048.26 [H30]	2,524.13 [R12]	減少傾向の中で、大山町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の目標値を適用し、当初値の半減をめざす

【 関連計画 】

- ・大山町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

⁶⁸ 地方公共団体実行計画(事務事業編・区域施策編)における温室効果ガス総排出量の算定・管理の支援等を目的とした環境省が開発するシステム『地方公共団体実行計画策定・管理等支援システム「Local Action Plan Supporting System(通称 LAPSS)」』を用いて算出したもの。町が所有する施設及び設備における燃料(電気・ガス等)ごとに係数を乗じ、温室効果ガス排出量を地球温暖化への影響度が高いCO2に換算した重量(t-CO2:トン二酸化炭素)。

30 豊かな自然を活用し、大山の恵みと共生するまちを続けよう

【 施策の目的 】

大山町の海から山までの豊かな自然と魅力を活かして、地域課題の解決と自然環境の保全の両立が図られる持続可能なまちづくりをめざします。自然と触れ合うことや自然との共生が、暮らしの豊かさにつながる大山町を実現し、大山の恵みある暮らしを次世代に引き継ぎます。

【 現状と課題 】

大山町では、日本海から大山山頂までの豊かな自然環境と、そのもとで育まれた文化・歴史・食などの資源をもとにまちづくりを進め、「大山恵みの里構想」の推進や「大山町アウトドアライフ構想」による取組を進めてきました。「大山町アウトドアライフ構想」では、まちの自然と暮らしに着目し、自然や屋外活動を切り口にした横断的な取組を、教育や仕事、健康や防災など多方面に拡げていくことをめざしてきました。これまで、自然や屋外活動の切り口で、アウトドアレジャーに関するアクティビティや施設整備、自転車活用などを中心に取り組んできましたが、今後はアウトドアレジャーに留まらず、一次産業・健康づくり・ふるさと教育・防災対策など、大きく展開していくことが重要です。

本町では、まちの魅力であると共通認識されている豊かな自然と大山の恵みに焦点を当て、さまざまなまちの資源が循環し、大山の恵みとの共生が図られる持続可能なライフスタイルの構築が重要です。自然と町民生活の親和性を高め、自然の恵みが豊富にある大山町をブランディングすることで、短期的な観光などで「観てよし」のまち、中期的な仕事などの滞在で「居てよし」のまち、長期的に持続可能で郷土愛を感じる「住んでよし」のまちをめざすとともに、暮らしを楽しめるまちを次世代に引き継いでいくことが求められます。





【 取組方針 】

1 分野を横断した取組をつなげる

- ① 自然環境の保護、自然資源を活用した地域振興などの視点で、諸課題に対して自然や屋外活動を切り口にした分野横断的な取組を支える体制を整備します。

2 大山の恵みと共生するまちを続ける

- ① 豊かな自然を活用し、大山の恵みを暮らしに活かす方法や関わり方を発信し、自然の恵みが豊富にある大山町を町内外に発信していきます。
- ② 町民・団体・企業等と連携しながら、自然とのふれあいに主体的に参加できる機会の提供をめざします。

主要指標					
指標名	指標説明	単位	当初値 [年度]	目標値 [年度]	備考
アウトドアイベント等提供数	アウトドアライフ構想推進事業によるイベント等の年間実施回数	回	7 [R6]	7 [R15]	横ばい傾向の中で、当初値維持をめざす

【 関連計画 】

- ・大山町アウトドアライフ構想
- ・大山町自転車活用推進計画